

# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.  
**173**

東北森林管理局

特集

国有林野における境界の保全

[ 保全課 ]

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

「風の松原」保全・保護の取り組み ..... [米代西部森林管理署]

### ■我が署の名所

内間木洞 ..... [三陸北部森林管理署 久慈支署管内]



朝日連峰—縦走路からの雲海  
[提供：ひとり登山部]

## 特集

# 国有林野における境界の保全

## 保全課

### 適正な国有林野の管理

東北森林管理局は、青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県の5県にまたがり、国土面積約530万haのうち約165万ha（約31%）を管理し、国土の保全や水源のかん養、レクリエーションの場の提供等多様な機能を発揮しています。



境界標識と境界見出標

この国有林の管理を行うための境界点は約77万点設置されており、その総延長は約21,000km（日本の裏側ブラジルまでの距離より長い）に及びそこには必ず隣接所有者が存在することから係争などの問題が起きないよう双方合意のもと適正な管理に努めています。

### 境界保全に向けた取り組み

境界は様々な場所にあります。庁舎敷、官舎敷など市街地にあるもの、林道敷、貯木場敷など市街地と山の間にあるもの、介在地、民有林境など山中にあるものなど様々であります。全てにおいて国民の皆さまの大切な財産である国有林の保全に向けた取り組みを行っています。

その重要な役割を担っているのが、現場第一線で活躍している森林官が中心となって毎年行っている、境界巡検（特に重要な境界点について、現地を毎年、踏査点検を行う作業）や境界巡視（遠望からの目視等により境界点の侵害がないか、毎年同一地点より確認を行う作業）さらには、境界検測予備調査（境界

検測（注）の実施を検討する際に必要な基礎資料を収集するため、現地を踏査し境界標の状況を把握する作業）です。

注：境界検測とは、過去に境界が確定している箇所、現地の境界が不明になったものを再現し、あるいは標識類の不備なものを整備するための測量のこと。



整備された境界



境界検測により復元された境界標識

また、製品生産事業や立木販売事業等において木材を生産・搬出する際に境界点を越境するリスクや、自治体等が実施する公共工事の際に亡失してしまいうリスク等、様々な要因はありますが、森林官が実施する現地説明等による事前のリスク排除にも努めています。

このような努力も自然災害にはかなわず残念ながらも亡失や損傷、移動など確認される場合がありますが、再測量・隣接者の立会いをお願いするなどして、復元を行い不明・異状標識の解消も行っています。このように地道ではありますがたゆまぬ努力により境界の保全是保たれています。

### みなさまへお願い

国有林の境界には山標と呼ばれる境界標識（コンクリートやプラスチック杭）が設置されています。また、その周辺には境界標識があることを示す、赤い札の見出標が設置されていますので、個人の立木伐採や農作業を行う場合は十分注意して作業をお願いします。

なお、境界が分からない場合は事前にお近くの森林管理署や森林事務所へご相談いただき境界の保全にご協力願います。

### 最後に・・・

保全課では毎年度の研修計画において、国有林野の適切な管理に必要な巡検、巡視の基



測定研修 機器の操作

礎的技術及びセオドライト等の測量機器の操作に関する測定技術向上並びに知識習得のため、測定研修Ⅰ（巡検・巡視）及び測定研修Ⅱ（境界検測）の各研修を実施しています。



測定研修 現地実習

### クマに注意

昨年も本誌をおかりしてクマ被害についての注意喚起をさせていただきましたが、今年度も目撃件数が昨年を上回る勢いであり、各社新聞には毎日のように記事が取り上げられています。ラジオ・鈴等の音の鳴るものを必ず身につけ、一人では絶対入林せず複数人での入林を心掛けてください。秘密兵器として撃退スプレーも忘れることなく携行し、引き続き事故の未然防止にご協力をお願いします。

# 美しい森林づくり



## 「風の松原」保全・保護の取り組み ～ニーズにあった利用に向けて～

米代西部森林管理署

能代市の日本海に注ぐ米代川の河口を挟んで南北に広がる能代海岸防災林は、飛砂や潮害等の気象害から後背地にある能代の街を守っています。

この防災林は、「風の松原」の愛称で市民に親しまれ、この中核となっている部分が国有林です。河口の左岸が後谷地国有林で南北方向に長さ3.4km、面積301ha、右岸が大開浜国有林で南北方向に長さ1.3km、面積41haで、合わせて国有林面積は342haです。

今回は、この「風の松原」の愛称で親しまれている後谷地国有林と大開浜国有林の保全・保護の取り組みについて紹介します。



「風の松原」のクロマツ林

### ○「風の松原」について

「風の松原」は、藩政時代から長い年月をかけて保全・管理されています。後谷地国有林では、市街地に近い箇所に藩政時代に植栽された林齢150年生以上の歴史的に価値の高いクロマツ林、海側に大正時代から昭和時代にかけて植栽されたクロマツ林を見ることが出来ます。また、河口に近い所には北前船の船乗りたちが出航前に日和を見たと言われている歴史的にも貴重な日和山が残っています。



ボランティア団体による歩道刈払い

### ○ボランティア団体による保全・保護活動

ここは、能代市のシンボルとして

地元住民に親しまれており、地域ボランティア団体の活動も盛んで、日頃から歩道の刈り払いやゴミ拾い等の活動が行われています。また、例年、4月の下旬に市民

団体主催により「風の松原を守る市民ボランティア大会」が開催されています。今年は、4月22日(日曜日)に開催され、高校生や自治会等、約70団体560人が参加し、落枝等の清掃活動を行い約12トン



落枝の回収作業

### ○レクリエーションの森としての利用

優れた自然景観で森林浴、自然観察、野外スポーツ等に適していることから「レクリエーションの森(風の松原スポーツ林)」に設定し、当署では生活環境保全林整備事業により東屋やウッドチップ舗装等の施設を整備し、能代市が管理しています。また、能代市では健康づくりのみちやトリムラン

ニングコース等の施設を整備し、利用をしているところです。

また、昨年、秋田県を会場に開催された「ねんりんピック秋田2017(全国健康福祉祭)」のマレットゴルフ競技会場に「風の松原」のコースが使用されたことと、マレットゴルフの人気の高まり等で、最近、多くの方が風の松原を楽しんでいます。



マレットゴルフコース

### ○地元自治体との連携

施設が整備されて10年以上経ち老朽化したことや、マレットゴルフ等により利用が増えるとともに、これまでと利用形態が変わってきたことから、当署では、風の松原の管理運営を円滑に進めるために、地元自治体や関係団体等と連携を図りながら、利用者のニーズに即した「風の松原」となるような取り組みを進めることとしています。



「平成30年度採材検討会」及び「請負事業者等災害防止協議会」を開催しました

三八上北森林管理署

5月25日(金)に、十和田市の生内国  
有林において、関係林業事業者、近隣自治体の林業担当者、東北森林管理局青森事務所及び当署の担当者など約50名が参加して採材検討会を開催しました。

検討会では木材流通の動向や素材の採材の考え方を説明した後、3班に分かれてスギと広葉樹の採材方法を検討しました。

合板材やLVLとしての需要が高まっているスギについては、小曲がりであっても4m材が取れないか、広葉樹については一般材の採材ができないか等、時折雨が降る中、各班とも活発に意見を出し合い検討しました。

特に、広葉樹のヤマザクラについては、見た目の状態から腐れがあるのではとの意見もあり、実際にチェーンソーで玉切りを行い、見えない欠点の判断の難しさを確認しました。

今回の検討会では、近年の木質バイオマス発電施設の増加による、低質材の需

要の高まりから、これまで捨てられていたよつな端材でも活用できないかということや、広葉樹が高値で取引された事例が紹介され、より積極的に一般材の採材を検討してほしい等、木材を生産する側と販売する側の情報交換の場としても、意義ある検討会となりました。



採材の検討 (チェーンソーで玉切り)



採材の検討 (スギ)



検討会の様子

請負事業者等災害防止協議会

午後は、十和田市民文化センターに場所を移して請負事業者等災害防止協議会を開催しました。参加事業者は21社42名、関係者21名、総勢63名が参加し、十和田労働基準監督署労働衛生専門官より「林業における労働災害発生状況について」と題し、最近の労働災害の発生状況及び傾向、対策などについて講話をいただきました。

続いて、林業・木材製造業労働災害防止協会青森県支部より「県内における重大災害の概要」の講話をいただき、これまで様々な現場を点検した結果から、災害事例や不安全行動について事例を交えて説明があり、非常に説得力の



林業・木材製造業労働災害防止協会青森県支部の講話

大災害の概要の講話をいただき、これまで様々な現場を点検した結果から、災害事例や不安全行動について事例を交えて説明があり、非常に説得力の

ある講義内容になりました。  
今後労働災害を発生させないように努力することを約束して閉会しました。

国有林内でのボランティア活動

青森森林管理署

6月15日(金)に、「眺望山自然休養林」において、一般社団法人青森林業土木協会の主催による「国有林内ボランティア活動」が実施されました。

眺望山自然休養林は、青森市中心部から北西に約20kmの場所であり、周辺には日本三大美林の一つ、「青森ヒバ(和名:ヒノキアスナロ)」が立ち並んでいます(日本三大美林のほか二つは秋田スギ・木曾ヒノキです)。また、100年生以上のスギ・ヒノキ・カラマツの人工林など多様な森林の姿が楽しめるレクリエーションの森で、市民の憩いの場になっています。

同協会は社会貢献活動の一環として各地域においてボランティア活動を実施していますが、眺望山自然休養林でのボランティア活動はこれ10年以上にも及び、これまでは遊歩道や側溝の作設、看板や休憩用ベンチの設置など、森林レクリエーションに訪れる方々が快適に眺望山の自然を楽しむための環境整備を行ってきました。

今回のボランティア活動の内容は、登山コースに設置されているヒバや人工林に関する説明の案内板が古くなり読みづらくなっていたことから、新たな案内板を作成し交換する作業です。同協会の会員など参加者39名が県内各地から集まり、また当署からも8名が参加し、総勢



案内板の設置



森林技術指導官による作業の説明

47名で行いました。交換が必要な案内板は21基あり、登山コースに点々と設置されているため、10班に分かれ皆で協力して作業しました。

重たい案内板の交換は、山頂近くでは大変な作業となりましたが、無事にすべての案内板を新しくすることができました。眺望山自然休養林に訪れる方々がより快適に森林レクリエーションに親しめ、青森ヒバや眺望山への理解を深めていただける環境になったのではないかと思います。

### 緑の少年団の体験林業活動を実施

青森森林管理署

6月23日(土)に、沖館地域緑の募金推進協会の主催により、青森市内の小学生で構成されるヒノキアスナコ緑の少年団を対象にした体験林業活動が青森森林管理署管内の国有林で行われました。

この活動は、地域住民に郷土の緑豊かな環境づくりに関心を持ってもらうこと、森林や林業への知識を高めることを目的として、平成18年より同協力が毎年開催しています。

今回はヒノキアスナコ緑の少年団20名・ヒノキアスナコ緑の少年団育成会12名・協力会8名の計40名が参加し、浅虫ダム近くの植栽後25年が経過したスギ林で、のこぎりを使った枝打ちやつる切り作業を体験しました。

当日は爽やかな晴天となり、開会式では当署署長や協力会から「枝打ちやつる切りといった人の手入れによって、ますます節の少ない木に育ちます」といった説明を受けたのち、心地良い風が通り抜ける森の中を歩いて活動場所へ向かいました。

作業が始まると、早速慣れた手つきで枝打ちを進める子もいましたが、はじめは林の中を恐る恐る歩く子、のこぎりを扱うのに苦戦している子など様々でした。しかし、さすが緑の少年団、みるみるうちに上手に斜面を上り始める子や、次々と枝打ちを済ませる子、近くの仲間たちと「枝が落ちるから気をつけて」と声を掛け合う子など、しだいに作業に馴染んで、生き生きと活動する様子が見られました。



活動の様子



枝打ち・つる切りの説明

今回の林業体験に当署からは職員4名が参加し、作業中の安全管理と技術指導を行いました。職員は枝打ちの手法を見せながら、どの枝を切ると良い木に育つか、などをアドバイスしました。作業の間には樹木の名前を質問する子や、職員の持つナタに「かっこいい」と憧れの声を上げる子もいました。

一時間ほどの作業を終え、スギ林の様子は枯れ枝やつるが落とされすっきりとしました。帰り道では落ちていた枝で遊びながら帰る子、川で魚を見つめる子どもなど、この体験林業活動を通じて子どもたちがのびのびと自然に親しんでいる姿が印象的でした。

森林管理署職員と地域の方々の交流機会は限られていますが、本活動は私たちの山での仕事に興味を持ってもらう良いきっかけになったのではないかと感じます。今後も地域のみならず、青森県が森林や林業とふれあ

う機会を支援してまいります。



署長の作業を見学中

### かみこおに保育園「すこやか学習会」における出前「木育」体験の実施

米代東部森林管理署上小阿仁支署

平成30年7月7日、上小阿仁村生涯学習センターにおいて、上小阿仁村立かみこおに保育園主催の「木育」をテーマにした「すこやか学習会」が開催されました。この学習会は、同園の父母の会の研修会として毎年様々なテーマで開催されています。今年度は、2月に東北森林管理局及び当支署職員が実施した出前「木育」体験をきっかけに、親子で木に対する親しみや木の文化への理解を深めたいとのことから、「木育」をテーマに開催されました。

学習会では、まず保護者を対象とした「木育」に関する講演があり、その後、当支署職員による出前「木育」体験を実施しました。今回の出前「木育」体験では、当支署職員が森の役割を紙芝居で紹介し、その後、親子で一緒に木のおもちゃで遊びました。紙芝居の内容は保育園児には少し難しいかと思いましたが、真剣に聞き入っていました。木のおもちゃで遊ぶ時間になると、園児達は卵



木のおもちゃ

の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。



木のプール

最後にありますが、木のおもちゃと紙芝居を貸し出し、た「あきた森づくり活動サポーターセンター」、積み木を貸して下さった「公益社団法人秋田県緑化推進委員会」

型の木の球を敷き詰めたプールに飛び込んだり、秋田県産材を使用した積み木を高く積み上げて楽しんで遊んでいました。木のおもちゃは、園児だけでなく、保護者の方々にも好評で、特に仕掛けのあるおもちゃは、どうやって遊ぶのかを子供たちに教えてもらいながら一緒に楽しんでいました。後日、回収したアンケートで、「早速、木のおもちゃを購入した」、「普段はプラスチックのおもちゃが多いので木のぬくもりに触れられて良かった」等の感想があったことから、今後も、出前「木育」体験を通じて、木と親しむ機会を提供していく予定です。

kmは日本で建設された全森林鉄道の中で最長のものでした。また、森林鉄道の動力車として最初に導入されたポールドウィン社製蒸気機関



青森市青森市館の青森貯木場を起点とし、本線67km、51路線の支線、分線を含めた総建設延長は283

雨宮製作所製10t蒸気機関車牽引の運材列車



5月29日(火) 一般社団法人 日本森林学会は、我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群を含む8件を2017年度林業遺産に選定し、林業遺産(No.25)として登録しました。津軽森林鉄道は、動力車で牽引する森林鉄道として日本で最初に建設され、明治42(1909)年に竣工しました。

# 祝 津軽森林鉄道林業遺産選定 技術普及課



相の股隧道のレンガ張りポータル

東北森林管理局には、開設当初からの関係官林署土木台帳、津軽森林鉄道関連の地図、実測図

また、青森市森林博物館には営林局幹部視察用客車あすなろ号、モノコック鋼製運材台車、六郎隧道扁額、中泊町博物館には協三工業4.8t内燃機関車が保存されており、現存する津軽森林鉄道の機関車などを間近に見られることから、これを契機に足を運んで頂きたいと思っております。



小田川支線に残る鋼製ガーター橋

現在、本支線の軌道跡、相ノ股隧道、ヒバ製及び鋼製橋梁等の遺構が国有林内に多数見られます。

車は、その後、各地の森林鉄道において活躍しました。なお、分水嶺を越える路線として最初のもので、2本の隧道が設けられるなど、その後の森林鉄道建設の基準となりました。

今回、津軽森林鉄道をメインに写真、路線図等を多数展示しております。また、仁別森林博物館では、津軽森林鉄道展のほか、常設展示、散策コースについて、わかりやすく解説して頂ける案内の方がおりますのでお気軽にお声がけ下さい。仁別森林博物館の開館日等については、お手数ですが東北森林管理局HPでご確認するか東北森林管理局技術普及課にお問い合わせ願います。皆様のご来館をお待ちしております。



片刈石支線に残る青森ヒバ木橋

このことを記念いたしまして、秋田市の仁別森林博物館で、平成30年7月14日(土)〜8月27日(月)まで「林業遺産選定記念津軽森林鉄道展」を開催

面、写真類が多数保存されています。「林業遺産」は、2013年度開始から全国で23件が認定されており、東北地域では今回の津軽森林鉄道が初めて選定されました。



mini  
corumn

# 道ばたの身近な植物

～雑草という名前の植物は存在しないが、  
将来には存在するかも～



森林技術・支援センター 森林技術専門官 増田 悠介

植物は地球上の極地の一部などを除いて、多くの場所で生育しています。普段、私たちのまわりの道ばたにも植物は生きています。日本の植物学の父である牧野富太郎及び昭和天皇の有名な言葉に「雑草という名前の植物は存在しない」というものがあります。植物の一部は雑草と一括りされていますが、それぞれに名前があり、今回はそんな道ばたの身近な植物についてご紹介します。

オオバコ（大葉子）はオオバコ科の植物で人や車が通るところに多く生えます。別名、車前草。踏みつけに強く、他の植物が踏圧で生えてこないところでよく生育します。

イタドリ（虎杖）は、タデ科の植物で荒地など様々なところに生え、よく道路などに張り出します。茎をたべると酸っぱく、スカンポなどと呼ばれています。

オオマツヨイグサ（大待宵草）はアカバナ科の植物で、明治時代に渡来した帰化植物。別名、月見草、宵待草などと呼ばれ、夕方から朝にかけて花を咲

かせますが、涼しいと日中でも咲きます。

シロツメクサ（白詰草）はマメ科の植物で、名前の由来は江戸時代オランダから送られた品物の包装に緩衝材として詰められていたことから。ヨーロッパ原産の帰化植物。また、別名クローバーと呼ばれ、通常、葉は小葉3枚ですが、まれに4枚のものがあり、四つ葉を見つけると幸運が訪れるかも。

植物の名前には一般的に学名と和名（標準和名）の2つの名前があり、学名は世界共通の生物の種につけられる名前で、ラテン語表記され、国際藻類・菌類・植物命名規約に基づいて決められています。一方、和名というのは日本で習慣的に用いられている名前でカタカナ表記されます。特に決まりがなく、広く認知され主流になればそれが和名になります。極論ですが、例えばオオバコという植物がザッソウ（雑草）という名前で呼ばれ広く認知され主流になれば、和名はオオバコからザッソウにかわります。もしかしたら、将来にはザッソウ（雑草）という植物が存在するかもしれません。



シロツメクサ（白詰草）



オオマツヨイグサ（大待宵草）



オオバコ（大葉子）



イタドリ（虎杖）



四つ葉のクローバー



# 森林官からの手紙

## 蔵王と千歳山と山寺と

山形森林管理署 山形森林事務所 首席森林官 布宮 孝

当森林事務所は玄関に「山形森林事務所」「山寺森林事務所」の看板を掲げております。場所は、山形県庁より少し東側で、旧山形営林署跡地の松林が残る土地に設置され、管理面積は8,300ha(山形・山寺担当区)を管理しております。

主な業務は、造林請負事業、森林病害虫(松くい虫、ナラ枯れ)の調査・駆除、境界巡視や森林ガイドなどと本年度は森林計画の予備編成のための調査関係となっております。

管内には、松尾芭蕉の俳句「閑かさや岩にしみいる蟬の声」で有名な山寺立石寺(やまでらりっしやくじ)、蔵王連峰や蔵王温泉と蔵王スキー場があり、蔵王スキー場には樹氷があり多くの観光客で賑わっています。



蔵王スキー場の樹氷

山寺立石寺は正しくは宝珠山立石寺とい、860年清和天皇の勅願によって慈覚大師が開いた、天台宗の山です。皆様が観光スポットなどで目にする正面の大きな建物は、国指定重要文化財の根本中堂です。入母屋造、5間4面の建物で、ブナ材の建築物では日本最古といわれ、天台宗仏教道場の形式となっております。

なお、ご注意ください。立石寺へは階段のみで入り口から1,000段以上あります。

蔵王連峰は古くは、刈田嶺(かったみね)や不忘山(わすれずのやま)といわれ、蔵王の名称は、679年に大和国・吉野山から役小角が蔵王権現を現在の不忘山(宮城県側)に奉還し、周辺の奥羽山脈を修験道の修行の場としての「蔵王山」と称したことに由来し、1950年に戦後新日本観光地百選で総合一位になったことを機に、山形県側では主峰の熊野岳以外は、神社名・温泉地名など、あらゆるものが蔵王に改称されたとのことです。

また、山形県庁の向かい側には千歳山があり標高が471mと低いことから山形市民の散策コースとして利用されており、この千歳山は飛鳥時代からの阿古耶姫伝説の地として市民に大切にされております。



松くい虫被害木の処理



抵抗性松の植栽

ります。しかし松くい虫被害が1982年から発生し2017年度までの累計被害本数が8,000本を越える処理となっており、昨年度は808本の被害木を処理しております。署でも2008年から「千歳山松林再生プロジェクト」をスタートさせ、地元ボランティア

ティアの協力の元、抵抗性松の植栽による緑化を進めているところであります。外にもナラ枯れ被害も多く、管内だけでなく、隣接の上山森林事務所部内でも多く発生しております。

昨年度318本(山形署全体)の被害木を処理しております。今後も被害が広まるのではと心配なところ



ナラ枯れ被害木の処理



緑の騎士団の活動

森林ガイド関係では、森林環境教育のためのサポート団体として、成沢グリーンフイルド協力隊、蔵王緑の騎士団による「遊々の森」や山形グリーンライフ女性の会があり、森林クリーン活動や林業体験などが計画され、各団体への指導・説明を行っております。当事務所では、森林病害虫被害対策から森林環境教育まで幅広く業務を行っております。今後とも、地域に国有林の仕事や林業についての取り組みをPRして行くこととします。



内間木洞夏まつり



内間木洞内部の様子



様々な表情を見せる氷筍



# 我が署の名所

## 内間木洞（ウチマギドウ）

三陸北部森林管理署 久慈支署管内 岩手県久慈市山形町

鍾乳洞と言えば、日本三大鍾乳洞とも言われ知られている岩泉町の「龍泉洞」が有名ですが、久慈支署管内にも、内間木洞という久慈市山形町にある鍾乳洞があります。この洞窟は総延長が龍泉洞より長く、限られた気象条件の下でしか見られない氷筍（ヒョウジュン）が見られる数少ない洞窟で、しかも年に3回しか一般公開されない自然のままの状態を維持している珍しい洞窟です。

内間木洞の総延長は6.350m以上という国内有数の鍾乳洞で、洞内の大空間である「千畳敷」や巨大な陥没孔の「洞内ドリーネ」、鍾乳石の連なりが巨大な滝や山を連想させる「大瀑布」「内間木富士」など、地底で長い年月をかけて作られた自然の驚異を見ることが出来ます。また、キクガシラコウモリを始めとする7種のコウモリや昆虫類など、貴重な生き物たちも生息しており、洞窟とともにこれらの動物たちを含めて岩手県指定天然記念物となっています。

普段は研究や教育目的以外の公開はされていませんが、7月の「内間木洞まつり」10月の「ぐれつとやまがた街道祭」2月の「内間木洞氷筍観覧会」の年3回だけ一般公開されています。

氷筍（ヒョウジュン）とは、冬場の洞内の天井から落ちる水滴が地面で凍りつき、筍（たけのこ）状に成長したもので、大きなものは2m以上にもなります。美しい氷筍が群生して輝く神秘の世界を体感することができます。

また、近くには「山根温泉べっぴんの湯」がありますので、洞窟探検の後は温泉にゆっくり浸かってみてはいかがでしょうか。



三陸北部森林管理署 久慈支署  
〒028-0001 岩手県久慈市夏井町大崎14-12  
TEL 0194-53-3391 FAX 0194-52-2653

